平成２６年第３回蒲郡市地域バス協議会　議事録

１　日時：平成２６年１１月２５日（火）１３時３０分～１５時
２　場所：蒲郡市役所　本館３階　３０４会議室
３　出席者

委員	愛知工科大学自動車短期大学自動車工業学科教授	橋本孝明
委員	名鉄バス東部株式会社	冨田尚之
委員	大塚地区総代会長	大岡肖好
委員	三谷地区総代会長	伊藤政志
委員	蒲郡町部地区総代会長	石郷岡幸雄
委員	蒲郡東西北部地区総代会長	大場克海
委員	塩津地区総代会長	成瀬正明
委員	形原地区総代会長	天野忠則
委員	西浦地区総代会長	杉山林一郎
委員	蒲郡市身体障害者福祉協会	原田ます子
委員	蒲郡市老人クラブ連合会	市川紀子
委員	蒲郡市社会福祉協議会	金原久雄
委員	蒲郡市小中学校ＰＴＡ連絡協議会	林明子（欠席）
委員	蒲郡市総務部長	井澤勝明
事務局	蒲郡市安全安心課長	藤川弘行
	蒲郡市安全安心課長補佐	竹下暁
	蒲郡市安全安心課主事	足立昌平

４　議題
　(1)　あいさつ
５　協議事項
　(1)　蒲郡市内路線バス再編検討案ダイヤについて
６　その他
７　議事内容
　(1)　開会
　・　出席委員が１３名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域バス協議会設置要領第５条３項の規定により会議が成立することが事務局より報告された。
　(2)　議題
　ア　あいさつ
　・　安全安心課長より、再編検討案について、蒲郡市地域公共交通会議にてお諮りした。概ね了承されたが、ダイヤについて意見を頂戴した。本日はダイヤ案について決定したいとの挨拶があった。

　・　議長より本日の議事録署名人として２名の委員が指名された。

(3)　協議事項

ア　蒲郡市内路線バス再編検討案ダイヤについて

・　事務局より、資料１に基づいて説明が行われ、再編検討案ダイヤについて全会一致で可決された。

・　パターン１は、通勤・通学での利用を想定したダイヤ、パターン２は、主に買い物客の利用を想定したダイヤである。ＯＤ調査の結果から、通勤・通学の利用は限られると考え、パターン２のダイヤについて検討していきたい。

・　今後電車のダイヤが変更されることが予想されるが、その際に電車とバスの接続を考えたダイヤとするため、調整は事業者に一任することを提案する。

〔質　疑〕

（委　員）

・　交通会議で出された意見を紹介いただきたい。

（事務局）

・　蒲郡駅から市民病院において方回り運行から両回り運行にすることで、喜人がいる、具体的に利用者の顔が思い浮かぶという意見を頂戴した。

・　ダイヤ設定については、事前に資料を送っており、意見をいただいたため、今回協議を行わせていただく。

（委　員）

・　企画段階について乗車の期待値があったと思うがどのように評価されたのか。

（委　員）

・　東側路線は、名鉄バス東部が自主運行されている。

・　丸山住宅から三河大塚駅、三谷駅口から三谷駅までは、名鉄バス東部はもうからないと判断しているところで、市が補助金をだして既存路線を拡張して運行してもらっている。もともと赤字部分なので利用は少ないが、丸山住宅は高齢者が多い団地であり、路線を確保していることについては効果があると考えている。

（委　員）

・　補助金をだしても運行させるということは、何らかの目標、基準があるのだろうと判断している。そうした期待値に対して、補助金の効果があるかというのを聞きたい。

・　そうした目標管理があるのではと思い発言した。例えば、一人を運ぶのにいくらかかるという数字があったほうが分かりやすいのではないか。

（委　員）

・　特定区画バスに対して、年間３５００万円の支出を行っている。市の東側は、丸山住宅から三河大塚駅部分。西側でも西浦地区から蒲郡駅、かつ市民病院の循環部分まで補助金を投入している。

・　市内４路線が補助対象であり、全ての路線毎の費用の内訳については把握していない。バス事業者からは、利用実績を報告してもらっている。赤字部分を全て補助しているのではなく、バス事業者にも収益から一部負担してもらい、路線を維持している。

・　利用実績の整理であり、路線毎の一人当たりの経費などの数値までは整理できていない。
・　不採算の部分で、蒲郡市が運行をお願いしている路線について、補助を行っている。
（委　員）
・　空白地の解消としており、補助金を投入していることから、他の地域からもここも空白だからやってほしいという意見がでるのではないかという点を懸念した。
（委　員）
・　名鉄バス東部による路線でもって空白地を解消するのではない。この協議会では、少しの工夫で利便性をあげることができないかという点を目的に議論している。
・　空白地の解消は、形原地区でも協議しており、別で検討を行っている。空白地対応は、タクシーなどの利用も考えるなどが計画にあり、別途進めている。
（委　員）
・　市の公共交通会議では、鉄道と既存バスを維持することを前提に議論しており、空白地対応については、別途検討組織を設置し協議している。
・　ここでの協議は、既存路線バスについてあまり費用をかけないで利便性を高める議論を進めることとしている。
（委　員）
・　ここで議論して良いのか分からないが、電車のダイヤについて地元からの意見がある。
・　名鉄電車のＪＲとの接続などのダイヤについて、どういう場所で議論したらよいのか。
・　名鉄の最終便が５分も遅くなれば、もっと利便性がよくなるとの指摘を地元から聞いた。こうした意見をどこで発言したらよいか分からないが、利用者の指摘を反映すれば利便性が向上し、利用者も増えるのではないか。
（委　員）
・　そうした議論は、公共交通会議だろうか。
（事務局）
・　鉄道の協議は、別の名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会があり、別の部門が所管している。先ほどの指摘は、その部門に伝えさせていただくことはできる。
（委　員）
・　バスと電車が同じタイミングで動いている。名鉄と路線バスの時刻がずれるだけでも、運行本数は２本から４本になる。並行して走っているのにダイヤがずらせないのか。ずらして、１便増やすことができれば、既に利便性の高い交通機関があることになる。
・名鉄の意向はあると思うが、議論できる場があるのであれば議論すべきだろう。
（委　員）
・　蒲郡市地域公共交通会議が昨年からできた。その場がそうした発言ができ

る場である。
・　名鉄におけるＪＲとの接続など会議設置以前から安全安心課などを通して話はしてきた。
・　名鉄バス東部と名鉄の並行路線については、拾石地区などバスしか通過しないところもある。両方ともＪＲとの接続からダイヤが設定されているのではないか。
（委　員）
・　ＪＲとの接続は、興味がない。ＪＲは、時間４本運行しており、最大１５分待てば利用できる。
（委　員）
・　公共交通の利用状況はＪＲ利用者のボリュームが圧倒的に多い。車両台数に限りがあるので、その中でＪＲとの接続を中心に考える。
・　鉄道と路線バスでは、料金設定、運行速度が異なり、サービスは異なるもの。
・　鉄道のダイヤは、具体的には分からないが、吉良吉田駅や安城駅との接続なども意識されているはずだろう。個別にこうしたいとしても、総合的なところでこうなるということがある。
・　同方向に、同じような時間で出ているのは当然よろしくない。しかし、形原方面に同じ方向で鉄道とバスの選択肢があるということは、間違いなくサービス水準が高くなり利用者は困らない。総合的にダイヤを設定していることを理解していただきたい。
（委　員）
・　ダイヤはいろいろな条件で設定されていることをご理解いただくしかない。ご意見ご要望は、会議などを通じて活用していく。
・　会議の分担があるので、この会議では路線バスの改善を中心に進めたい。

イ　その他
（事務局）
・　ラグーナテンボスにより、蒲郡駅から無料シャトルバスの運行が開始された。
・　既存バス路線について、影響は避けられないと考える。
・　この点について、利用実態を調査していると聞いている。情報提供をお願いしたい。
（委　員）
・　無料バスの運行は、１０月１５日に初めて聞いた。通告を受けた状態。
・　事業内容は、貸切運行で無料送迎バスを運行しており、路線バスとは運行形態が全く違う。法律上運行を差し止めることも出来ないもので、単に受け止めるしかない。
・　９：２０から運行を開始し、１時間に２本、直行便を１１月１４日から運行すると聞いた。実際の状況を見ると聞いていた、９：２０前の８時台と最後の便の後にも、従業員の送迎用で運行している。この運行は全く聞いていなかったもの。

・　乗降客数については、１１月１４日の前後で比較すると平日では半分になった。休日は、４割になり６割減少した。従業員の送迎についても約２０名の定期券利用者がいたが、その方々は、ほぼゼロになった。
・　市の東部地域の路線バスについて、丸山住宅とを結ぶ４往復分については、採算性があわないため、補助をもらって維持している。その他のラグーナ便は、これまで何とか採算がとれていた。それが半分になったため、赤字に転落することになる。赤字のままでは、運行できないため、このラグーナ線については、大幅な減便もしくは廃止を検討することになる。運賃は３００円であり、現状はまだ知れ渡っていないため、間違って路線バスを使ってくれているが、無料バスがあれば近い将来ゼロになるだろう。
・　地域住民の利用者のウェイトはほぼ限りなく少ないため、４往復の便に地域の利用者分だけ想定したとしても現状の１６便を１日数本にせざるを得ない状態になる。
・　市の立場を考えると、観光振興の立場もあるだろうが、地域の足の生活路線の維持もある。そのバランスについては、我々では何ともならない。
・　民間では採算を考えなければならないので、近い将来、半年後になるかもしれないが大幅に変更せざるを得ない。愛知県にも報告し、どうしていくか県市で考えていただくことをお願いしたい。

（委　員）

・　言われることも分かる。赤字が増えれば市がどうするかということか。これまでのいろいろな経緯で３５００万円の補助になったと思う。東側から中心部まで出てくる路線についてやっていただけるのか、無しというわけにはいかないだろう。市の考えによるだろう。

（委　員）

・　形原地区の取組み、議論をうけて、新たにどんなことが考えられるか検討したらどうか。

（委　員）

・　コミュニティバスの議論が進んでいるので成功すれば、こちらの議論を展開すればと思う。公共交通を維持することは難しい。発言された意見については、いろいろなところで協議したい。

（事務局）

・　次回は必要に応じて開催させていただく、実施の際には、事前に連絡させていただく。

以上